

ちょっと人権

赤ちゃんは、なぜ泣くの？それはね・・・

乳児は、いや人間は素晴らしい力を持っている！号

人権教育セミナー短信 No. 8 平成 17 年 8 月 25 日

学校支援部 人権教育担当

第9講座 幼児期からの人権教育

今日は第9講座。いよいよ残りわずかとなりました。本日は近畿の9大学において「人権」や「子ども」をキーワードにした講座を多数担当されている井上寿美(ひさみ)さんを講師にお迎えし、午前は講演、午後はワークショップというかたちで終日お世話になりました。「幼児期からの人権」ということで、他の講座より保育所や幼稚園の関係者の参加が多かったのですが、高等学校からの参加もあり、学校園所を越えての協議もでき、有意義な時間が持てました。



著書「子どもと出会う
あなたへ」を活用中

1 講演 乳幼児期から大切にしたいこと [関西大学非常勤講師 井上寿美さん]

鮮やかなセルリアンブルーのスーツで登場した井上さん。八尾市在住ということで語りはもちろん大阪弁。具体的事例を挙げながら歯切れよくテンポよく、快調に話を進めていきます。講演の中から、これは！というポイントをいくつかピックアップしてみましょう。

☆☆☆ 知っていますか「4つの視点」☆☆☆

人権についての教育、人権のための教育など、人権教育の4つの側面という言葉を知っていますか？「ちょっと心配だなあ」「正直言って知りません」という方は、まずこの春、県内の全教職員に配付された人権教育指導資料「Let's じんけん」(改訂版)のP4, 5を見たとえで、この短信をご覧ください。かつては「側面」という言葉をつかっていましたが、今は「視点」に置き換えていますのでご注意ください。ここではキーワードとなる4語:「**機会**」「**内容**」「**環境**」「**目的**」を示しています。このキーワードは重要です！今回はこのなかの「**環境**」について考えてみましょう。

一事例1ー「こんなとき、あなたなら、どう返す？」

さて、あってはならないことですが、もし体罰があれば、けがをすることが多いので比較的発見しやすいですね。しかしことばの暴力はどうでしょうか？ 見つけ辛いですね。それも露骨なものではなかったら、人権感覚を磨いていないと見過ごしてしまいます。事例はある園の5歳児の教室でのことです。しりとり遊び(ことばを発するだけでなく、その絵を描いて見せながらのしりとり)をしていました。Aちゃん「帽子」⇒Bちゃん「鹿」⇒Cちゃん「カバ」⇒・・・と進んでいきます。活動後、振り返りのなかで、Bちゃんの鹿は角が立派でじょうずだったよ！ Cちゃんのカバは今にも動きそうだったね！ などというかたちで評価の声が子どもたちから出されました。しかしAちゃんの帽子の絵に関してだけは誰も何も言いませんでした。全活動を終えようとしたときに、ある子が全員に聞こえる声で次のように言いました。「Aちゃんの絵、何にも言われなかったねえ」・・・さて、あなたはどうか考えますか？ また、どう返しますか？

一事例2ー「何気なくつかっていませんか？ 次のような会話」

- ・Aちゃんの家は通常母親が迎えにやってきます。でもこの日は父親が迎えに来ました。そのときあなたはこう言いました。「Aちゃん、今日はお父さんが迎えに来てくれたよ。お父さん、えらいねえ！」
- ・ある日のこと、Bちゃんのズボンのゴムがゆるくなっているのを発見！ そのときあなたはBちゃんに対してこう言いました。「Bちゃん、ズボンのゴムがゆるくなっちゃうで。お母さんに直してもらおうね」

本当に何気なく発言してしまいそうな会話ですね。でも会話がなぜ「環境」と関係があるの？というあなた、実にいい質問です。「環境」というと身のまわりの物など＝物的環境に目が行きがちですが、もうひとつの環境＝「**人的環境**」が重要だというお話です。その視点から考えてみてください。この会話は、発言者には特定の意図は無かったとしても、その発言により子どもに何かを刷り込んでしまう恐れがあるものです。どこに問題点があるのかは、ここでは示ませんが、同僚など身近な人と話してみてもどうでしょうか？ いずれにせよ、教育や保育に携わる者の言動は、子どもたちに多大な影響を与えます。「担任している子どもたちにとっては、私が最大の教育(保育)環境である」という思いを忘れず実践していきましょう。

☆☆☆ 対等な関係とは？ そこから「受け入れる」と「受け止める」の違いを考える ☆☆☆

「ある日、子どもが急に『先生、プールに入りとうない』と言ってきた。このことばを聞いたとき、以前の私なら『何が何でも水に入れさせよう』としてきたが、カウンセリングマインドを学習してからは『うん、入らなくてもいいよ』と言えるようになった」と、ある保育士さんは言いました。しかし「入らなくてもいいよ」でいいのでしょうか…。カウンセリングマインドで大切なことは、「入りとうない」という言葉に対して「YES」を言うことではなく、言葉の中にある子どもの気持ちを受け止めることです。「お互いが自分の考えをぶつけ合える」関係を築くことが大事なので、このうえに「互いの違いを認め合える」ようになれば、それはまさに「対等」な関係と言えるのではないのでしょうか。

この子は先生に対し「自分の考え」を率直にぶつけていますから、それが言える関係を確立できているといえますね。ところで対等でない関係とはどういうことでしょうか。分かりやすく言えば「**上下関係**」があるということです。では、子どもと教育者(保育者)の関係は、いかにあるべきなのでしょう？ いつでも対等であるべきか…いや指導すべき時もあるはずだ…悩んでしまいますね。よく分かります。私たちはこう考えます。何も固定することは無いと思うのです。その都度、状況を見て「コロコロ変わって」よいのです、と言いますか、状況によって変えなければならないと思うのです。ここで大切になるのが「**受け止める**」と「**受け容れる**」の違いです。受け容れるというのはまさに「まる

ごと」受け容れること。だから何も言うことはありませんし、できません。しかし、目の前の子どもが自分にとって、とても大切な存在であるからこそ、時には厳しい意見を言う必要もあるのではないのでしょうか。だからこそ、意見や感想を返すことができる「受け止める」を大切にしたいと思うのです。臨機応変な対応を！と言えば簡単なのですが、即座に最も的確な判断を下し、適切に行動するのは、なかなか難しいものです。事例研究という大袈裟なかたちでなくていいですから、お茶室あたりで「こんなとき、わたしは〇〇って言ってしまったけど、先生やったらどうする？」というような会話を、日常的にやりとりすることが(やりとりできる職場づくり)が大事なのではないのでしょうか。

2 ワークショップ 子どもと出会うあなたへ

この研修はワークショップでした。簡単な流れとポイントを記載します。実際に演習的にやってみてはどうでしょうか。

1. 赤ちゃんの寝姿は？

みなさん、まず、何も見ずに赤ちゃんの寝姿を描いてみてください。(描いた後で、続きをどうぞ！)では調べてみてください。左右対称になっていますか？(なっているあなた、アウトですから残念！)井上さんの話によると絶対左右対称にならないそうです。この時期、赤ちゃんはまだ自分の意志で体を動かすことができませんから、顔が右を向いていれば右腕は伸びており左腕は曲がっている(弓矢を射る形)というようにならざるを得ないんだそうです。

2. 赤ちゃんはよく泣くけど、なぜなくの？ 「泣く力」って何をするための力なの？

受講していないあなたは、自分の考えを持ったうえで参加してみてくださいね。受講者からは「生きていくための自己主張」「気持ちを伝える」「生きていくために訴える力」などが出されました。答えはどれもいい線いってます。でも、何かめかっていますか？そう、「**他者**に」の部分めかっていますよね。①赤ちゃんはよく泣く⇒②赤ちゃんは泣く力を持っている⇒③人は生まれながらに他者とつながる力を持っている。教育(保育)に携わるプロなら①の現象面で留まらず、②③と発展したとらえ方をすべきですね。また、これをもとにすると、子どもの見方が変わってくるはず。次の例で考えてみましょう。クラスの仲間と共に行動しようとしないうちが多い子どもがいます。その子が今日も別行動をとろうとしています。それを見て、あなたはどのように思いますか？(考えたうえで下の選択肢を見てください。どれが近いですか)

- (A)「またか、あの子はいつもこうだ」
- (B)「あの子はなぜ、人とつながろうとしないんだろう」
- (C)「あの子はなぜ、人とつながる力が出せないんだろう」

(A)は問題外です。教育者(保育者)としての資質を疑いたくなります。(B)一番多い答えだと想像されます。悪くはないですが、人権教育でめざすのはやはり(C)です。「他者とつながる力は、どの子も持っている」を大前提に営むのが人権教育ですから。

3. 共感、共感って簡単に言うけれど…

あなたは8歳の子どもです。きれいな石を見つけて集めるのが大好きでした。それをお菓子の箱に入れて大切に保管していました。ある日のこと、おかあさんがその宝箱をゴミだと思って勝手に捨ててしまいました。青や緑、縞模様、それに形もいろいろあって、とっても気に入っていたのに…。そのときの気持ちをできるだけ具体的にできるだけ詳しく想像してみてください。

大きく分けて「①宝物をなくしたという喪失感」について想像した方と「②理解してもらえなかった辛さ」を想像した方になると思います。大筋で判断しても約半数の方はズレていることになります。もっと具体的に想像していくと更にズレが生じてくるはず。つまり「共感しているつもりでも必ずどこかはズレている⇒ピツリと共感するには限界がある⇒完全な共感は無理」というスタンスで当たるべきなのです。じゃあ、共感しようとするのは無駄なのか！と眉毛を逆立てているあなた、落ち着いてください。話は最後まで聴いてください。わたしたちが言いたいのは、完全な共感は無理というスタンスを理解したうえで、それでも「より近い共感を図ろう」とする態度、分かりたい、共感したい、共感し続けたいという気持ちが大切なことなのです。

では、子どもの気持ちにできるだけ近づいて、子どもの気持ちと大きくズレないように聴くための聴き方とはどんなものなのでしょうか？井上さんからヒントをいただきました。

- だっこするなどスキンシップをとりながら聴く。(かなり効果的)
 - 相槌を打ちながら聴く
 - 相手を認める姿勢で聴く = 否定しない
 - 聴き役に徹する(決して途中で口を挟まない)
※途中で口を挟むだけでなく、話を取ってしまつて挙句の果てに説教してしまうあなた、やめましょうね！
 - 最後まで付き合う。決定したあとにつきあう
 - 復唱する
 - 相手の言うことを反復する
- 下の2つはスキルの習得

研修後、井上さんは高知にもう1泊されました。ホテルまで行く道中で、「自主研修として明日、高知県人権保育連絡協議会顧問、全国解放保育連絡協議会会長の植田嵯峨先生と面会し情報交換をするんですよ！」と満面の笑顔で話してくれました。絶えざる向学心。素晴らしい一言です。

